

●木津川希少種生育調査管理業務

11月8日の午後13:30分から木津川市加茂町で管理地30番31番の刈り取りを太田さん森島さんが行って下さいました。除草面積で1000㎡以上の所は4か所になってきました。昨年だと11月には手が付けられませんでした。今年は同志社大学サッカー部の皆さんが応援に来てくれるのなら刈り取っておかなければと寸暇を惜しんで馬力をかけていただいています。この調子だと11月末には大規模面積の所はほとんど刈り取れるのではないだろうかと思います。同志社大学の皆さんのご奮闘がいただければ年内に希少種生育調査業務作業は完了できるのではないのでしょうか。既に生育調査作業を担当していただいている伊藤さん達グループ6人は2023年度のまとめの段階に入っていております。体力のいる除草作業と収集作業と焼却作業にはとりわけ厳しいものですが予想されるトラブルを考えて慎重にお願いします。除草作業は万一の場合を複数人数での作業を原則に、単独作業はしないことで取り組んでいます。そして作業予定は水曜日と木曜日の午後を予定時間にして実行することで進めております。会員の皆様に時間の許す限りご協力をお願いいたします。

●里山の会昆虫観察会 12月16日(土) 10:00～ 里山農園 桜谷保之先生指導 参加者募集

里山の会が発足して以来の定番調査活動が京都府指定の準絶滅種の「オオムラサキ」生育確認調査です。これは炭焼き体験の取組みの折に付近にオオムラサキの飛翔が確認されているからとの話の中で取組みが始まりました。蝶々だから判断できると思っていたら15M～20Mの上空を縄張りとして雀ほどのスピードで飛翔します。そして羽の外側は地味な色なので素人では判定が非常に難しく、樹液が出ているかなり高いところに止まるものですから大変でした。ご指導をいただいた桜谷先生から夏に確認するのは困難なので、エノキの落ち葉で越冬するため、そこで幼虫を見つける方法をと教えてもらって冬の昆虫観察会が始まったのです。打田の炭焼き小屋の周辺にはエノキが10本程度まばらにあったので、一本一本根元の落ち葉をトランプの神経衰弱ゲームのように裏返しにして調査を続けました。周囲にはコナラやエノキから樹液が出ていましたが、台風などで巨木の倒木が目立ち、樹液が少なくなって最近では成虫も確認できず、昨年と今年は調査開始以来、初めて幼虫を発見することが出来ませんでした。生育環境が大きく変化してきているのではないかと思います。今年の夏はこれまでにない異常な高温続きで影響が心配されます。さて12月16日(土)の10:00から冬の昆虫観察会を計画しています。集合地は里山農園で、開会挨拶の後、農園のエノキ林、続いて周囲のエノキを調査します。参加申し込みは里山ホームページをご確認ください。

●第4回イタセンパラの復元を目指す会 12月16日(土) 15:00～ 田辺社会福祉センターで開催予定

第3回目指す会では玉水橋ワンドでの調査でヘドロ問題が大きな課題であることがわかってきました。また井手町を中心にした地域での取組みが大切だとも強調されました。また外来魚対策として釣り大会などの提起がありました。ワンド周囲の除草等も話題に上がりました。そしてワンドたまりの環境整備に北川忠生先生との連絡をとることも必要との声もありました。開けて2023年度の取組みはワンド周辺の草刈とワンドへの生育調査のための通路確保を実現させることができました。また綾先生のお骨折りがあって釣り竿の協力貸し出しが実現し、第1回の外来魚駆除を目的にして釣り大会実行できました。木津川漁協の後援申請に関わって外来魚に関わらず遊漁券の購入の必要を請求されました。また後援に関しては協力金を提供されないと不可能だということも分かりました。そして漁協組合からの内諾書がなければ京都府に採捕許可書が交付されないことも分かりました。この取組みで木津川漁協組合に10人分保護者分の遊漁券を購入して

実行しました。大会開催のためにワンド周囲と進入通路確保のための除草作業に随分力を注ぎました。また終了後には参加者全員で最初よりも美しくしようと呼びかけてキレイにごみを片付けました。

●三重県立総合博物館視察 11月11日（土）三重県津市 竹門・山村ら8名が参加

これまで里山の会も加入している自然保護環境京都ネットワークでは、これまで大阪市立自然史博物館、滋賀県立琵琶湖博物館、兵庫県立人と自然の博物館、静岡県立ふじのくに地球環境史ミュージアムと計5館の視察に行きました。

参加者は（敬称略）、竹門、山村、黒田、坂根、中嶋、古結、木林、伴の8名でした。午前9時30分集合で、午前中は守屋館長、北村副課長（学芸員）の案内で、一般展示、特別展示

（鳥）、バックヤードを見せていただきました。とりにある三重県総合文化センターのレストランで、館長、副課長を含む全員で昼食を取りながら歓談、交流をしました。午後は13時から15時まで、博物館の資料をもとに説明をしていただき、1時間半ほど質疑応答や議論を行いました。やはり、「ハコモノ」をつくるために、大変なご苦労をされたようです。



●鮎の流下仔魚の調査 11月11日（土） さくらであい館

三川合流部（桂川・宇治川・木津川）の御幸橋を使って、さくらであい館をメイン会場にして「鮎の流下仔魚の調査」が11月11日（土）に行われました。里山の会からは杉本、太田、金田、山村が参加しました。夕方5時集合で解散は11時過ぎの長丁場でした。

長いロープ（30m以上）にプランクトンネットを取り付けて橋の上（御幸橋）から降ろして10分間水流に流して引き上げ、網に入ったアユの仔魚を見つけ出します。最初は目が慣れず見つけ出すには相当苦勞をしましたが、慣れて来るにしたがって分別が付きます。6時台や7時台は予行演習で8時台や9時台のピーク時には目もなれてきます。アユは親が産卵した後4～5日で誕生し、4～5日分の餌をもってうまれますので、この間に餌が豊富な海に到達しなければなりません。昼間は川底などに潜んで安全を確保して暗くなった夜に水面に浮きだして流下をします。ですから夜の調査作業になります。11日から一挙に冬の寒さになりましたので、寒さが応えました。18日にも第2回目が行われますが十分な防寒着が必要です。皆さん一度はこうした取り組みにご参加いただけると良い体験になりますので、是非お越し下さい。

●河川協力団体「大和川クラブ」との交流 11月19日（日） 9時出発

近畿地方で河川協力団体と承認されているのが24団体あります。里山の会もその一つで木津川の希少植物調査業務を国土交通省から受注しています。大和川クラブもその一つで事務所から受注して仕事を進めておられます。この度19日に催しが開催されますので、それに参加する形で交流を深める機会ができました。午前中は大和川河川事務所の見学が予定されています。同事務所は木津川花ごよみの発行に骨を折っていただいた白波瀬様が所長に赴任されていました。また中聖牛で通路を設置の実現に尽力いただいた堂下様も勤務されていたところで、木津川とは深い関係にある事務所ですので、大和川クラブの活動を深く学べると思います。参加費は無料で交通費は個人負担でご参加ください。朝9時過ぎに出発すれば十分間に合うと思います。参加される場合山村までご連絡をお願いします。澤井先生もご参加される予定です。